



「特集」

技

子どもたちの成長に合わせて広いわが家へ （居間と子ども部屋を増築し、これまでの不満を解消）

夏休みを利用して、住宅と接骨院をリフォーム

富山県宇奈月町にある三箇接骨院は、表に待合室や診察室があり、奥が自宅という木造の建物である。院長の三箇さんは、町の柔道スポーツ少年団の監督でもあり、お子さんたちも柔道をやっているという柔道家である。お子さんは、高校2年生を筆頭に、2男3女。7人の家族が、2LDKの住宅で暮らしていた。

「子どもが大きくなって、居間にみんな入れない状態ですよ（笑）。少しでも広くして、子ども部屋もつくりたいというのがきっかけでした」と、三箇さんは語る。

そこで、6畳の居間を広げ、DKと居間が分かれていたのをつなげてLDKとし、東側のカーポートとして使っていた敷地に車庫と子ども部屋などを増築することにした。併せて接骨院の二部もリフォームすることとなった。

着工は6月下旬。完成は8月末の予定で、2学期から新しいわが家で暮らすというスケジュールである。まず、居間の解体に取りかかったが、屋根が寄せ棟になっており、増築する2階建てとつなげるには切り妻屋根にしなければならない。

「晴れの日が何日が続かないと屋根の解体ができないので、天気予報と進捗状況の摺り合わせが難しかったですね」と担当者は言う。



三箇接骨院と自宅の全景。左の白い2階建てが増築部分（上）。真ん中の平屋部分が診察室。改装前は、寄せ棟の屋根だった（左）。



広がって、ダイニングとワンフロアになった居間（上）。右側のサッシを開けると、特別製のサンルームがある。屋根と一体となり、日差しも取り入れる（右）。



時期的に気配りが必要で、梅雨明けも考慮しながら、晴れた日に済ませなければならぬ工程を終えることができた。この頃、瓦を葺く段階で台風7号が接近。しっかりと養生をして待ちかまえたが、幸いにも進路はそれであった。

少しでも広く、明るく、収納もプラス

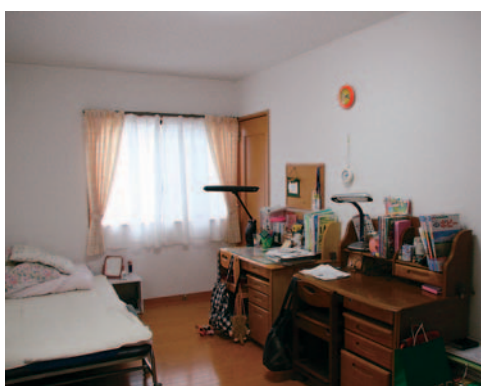
居間を広げるには、数年前に付けたばかりのサンルームを外側に動かさなければならぬ。そうすると、屋根の勾配の関係上、既製のものは取り付けられない。

「サンルームは絶対必要条件だったので、現場に合わせて新しくくりました」と担当者。奥さまは、「少しでも広く、明るく」と言うてたんです（笑）。特製のサンルームは、屋根から光が入るので、居間も明るいですよ」と満足そうに語る。洗濯物の多い三箇家には、うれしいスペースだ。

居間は2畳分広がり、流し台の位置を変更してキッチンも広げ、一体化した広がりのあるLDKとなった。

並行して、増築部分の工事も進められていた。1階は、車庫と納戸、2階は子ども部屋が2つという設計だ。これまでの住まいには、収納部分がほとんどないというのも悩みだった。「それで、6畳というまとまったスペースを提案したんです」と担当者は言う。

増築部分は、隣地と接するため、屋根の雪が落ちていかないようフット板な折板葺きとした。



女の子2人の子ども部屋は、9畳の広さ。白いクロスは、子どもたちが選んだ。

「屋根部分は吸音材を敷き詰めて、天井も2重張りにし、雨の音を少しでも軽減できるようにしています」と担当者。三箇さんは、「暮らしを見て、首は全然気になりませんよ」と言う。周りのサイディングで囲んだ建物は、キューブ形で木造建築には見えない仕上がりになっている。

患者さんからも評価された工事

接骨院の方は、診察室のクロスの張り替え、待合室にあるトイレのリフォームを行った。自宅の改装中、ご家族は他で仮住まいをされていたが、接骨院は休むわけにはいかない。

「営業に差し支えないようにしましたが、どうしても休んでいたかないとできない仕事があるので、休診日を利用したんです」

この夏は、スポーツ2家ならではの予定があった。息子さんの通う高校のインターハイ出場、教子さんの全国大会出場などがあり、地域のスポーツ指導者として会場へ赴くため、当初から休診予定の日があった。そのスケジュールに合わせて接骨院の改装を行った。

「こちらの都合に合わせて助かりました」と三箇さん。

待合室のトイレは、和式だったのを洋式にし、手すりや手洗い空間も設けた。ご主人が前から気にされていたことだという。

「結果的に待合室が狭くなったんですけど、何人かの患者さんから『よかった』と言われて。その声を聞いただけで、変えてよかったと思えました」と奥さまは言う。

発注者のご都合で着工は予定より遅れたが、完成は予定通りだった。「びったり終わられたんですよ。十分取り戻しますから」と言われて」と奥さま。子どもたちも、広くなった家を喜んでいてという。

「広くしたいという要望を十分にならせたかったし、施工中に患者さんから、『きれいな仕事してるね』と言ってもらっていたんですよ。頼んでよかったなと思います」と三箇さん。

明るく元氣いっぱいな子どもたちが、ご両親の愛情を受けてどんどん成長していく空間。住まいは、家族の成長に合わせて変わっていく幸せの器であると言える。



技のリフォーム

イフサ ミセマス

0120-183-304